

# 高齢者の生活圏と移動手段

中央大学大学院戦略経営研究科教授  
佐藤博樹

## 1. はじめに

日常生活に必要な食料品などを高齢者がどのように確保しているのか。その方法を調べると、自分で買い物に行く者と他者に依頼している者に分かれる。自分で買い物に行く方法は、徒歩と自動車等の運転や公共交通機関の利用などが主となる。徒歩での買い物が可能なのは、徒歩圏内に食料品などを取り扱う店があるかどうか依存する。都市部と異なり町村などでは、徒歩圏内に食料品などを取り扱う店がなく、自分で自動車等を運転して買い物に出かけることが必要な地域も多い。他方、高齢者は、加齢などによる心身機能の低下などから、自動車の運転が難しくなる場合も少なくない。とりわけ最近では、認知症の高齢者が、自動車を運転することで、事故などが起きた事例も報告されている。こうしたことを踏まえて、本稿では、高齢者の生活圏の構造と食料品などの確保の方法の関係を検討する。

## 2. 徒歩圏内での食料品等の確保の方法

調査では、徒歩圏を自宅から500メートル圏内と定義している。高齢者の徒歩圏内に所在する施設(Q20)は、都市規模などで異なる。「コンビニエンスストア」と「スーパーや商店街など商業施設」を小売店と略すると、徒歩圏内における小売店の有無を都市規模別にみたものが図表1である。それによると、全国計では調査対象者の半数(51.3%)では、徒歩圏内に小売店があるが、その比率は都市規模別に大きな違いがある。大都市に居住する高齢者の72.5%では徒歩圏内に小売店があるのに対して、町村ではその比率が32.6%に低下する。言い換えると町村では、高齢者の67.4%では徒歩圏内の小売店がなく、食料品等の確保が徒歩では難しい生活環境にある。(図表1)

図表1 徒歩圏内における小売店の有無

			Q20 小売店の有無		合計
			有	無	
都市規模	大都市	度数	319	121	440
		割合 (%)	72.5%	27.5%	
	中都市	度数	412	404	816
		割合 (%)	50.5%	49.5%	
	小都市	度数	211	291	502
		割合 (%)	42.0%	58.0%	
	町村	度数	71	147	218
		割合 (%)	32.6%	67.4%	
合計		度数	1013	963	1976
		割合 (%)	51.3%	48.7%	

以上のような結果を踏まえて、都市規模別に食料品等の買い物の方法を調べて見てみよう（Q17）。図表2によると、「自分でお店に買いに行く」は、いずれの都市規模でも70%を超えるが、大都市では78.0と比率が高く、他方、町村では71.1%と低く、都市規模で差がある。同時に、「家族・親族に頼んでいる」は、都市規模が小さくなると漸増し、町村や小都市では20%を超える。それだけでなく、「自分で買い物に行く」場合でも、その方法に違いが見られる（Q18）。（図表2）

図表2 食料品等の買い物の方法

		Q17 日常の買い物の仕方							合計	
		1 自分でお店に買いに行く	2 移動販売等を利用している	3 宅配サービスやネット販売を利用	4 家族・親族に頼んでいる	5 知人・友人や近所の人に頼んでいる	6 ヘルパーや家事代行に頼んでいる	7 その他		
都市規模	大都市	度数	343	0	10	83	0	3	1	440
		割合 (%)	78.0%	0.0%	2.3%	18.9%	0.0%	.7%	.2%	
	中都市	度数	631	1	17	155	0	7	5	816
		割合 (%)	77.3%	.1%	2.1%	19.0%	0.0%	.9%	.6%	
	小都市	度数	370	1	8	118	1	2	2	502
		割合 (%)	73.7%	.2%	1.6%	23.5%	.2%	.4%	.4%	
	町村	度数	155	3	4	52	1	0	3	218
		割合 (%)	71.1%	1.4%	1.8%	23.9%	.5%	0.0%	1.4%	
合計		度数	1499	5	39	408	2	12	11	1976
		割合 (%)	75.9%	0.3%	2.0%	20.6%	.1%	0.6%	0.6%	

図表3は、食料品等を「自分で買い物に行く」と回答した高齢者に関して、その方法を都市規模別に尋ねた結果である。それによると、大都市では、「徒歩」が50.1%と半数を占め、「自分で自動車等を運転」は32.9%と低いが、それ以外の都市規模では「徒歩」が少なく、「自動車等を運転」が増加する。中都市では、「徒歩」が26.9%で、「自動車等を運転」が57.7%で、さらに小都市と町村では、「徒歩」が20%を下回り、「自動車等を運転」が70%弱と高くなる。また、「公共交通機関」の利用は、大都市を含めて、比率は高くない。つまり、大都市以外の地域では、食料品等を自分で調達する方法として、「自動車等を運転」がきわめて大きな比重を占めているのである。（図表3）

図表3 自分で買い物に行く方法

		Q18 買い物に行くときの交通手段					合計	
		1 徒歩	2 自分で自動車等を運転	3 公共交通機関	4 家族等が運転する自動車やタクシー	5 その他		
都市規模	大都市	度数	172	113	11	22	25	343
		割合 (%)	50.1%	32.9%	3.2%	6.4%	7.3%	
	中都市	度数	170	364	16	40	41	631
		割合 (%)	26.9%	57.7%	2.5%	6.3%	6.5%	
	小都市	度数	54	252	6	30	28	370
		割合 (%)	14.6%	68.1%	1.6%	8.1%	7.6%	
	町村	度数	29	104	2	15	5	155
		割合 (%)	18.7%	67.1%	1.3%	9.7%	3.2%	
合計		度数	425	833	35	107	99	1499
		割合 (%)	28.4%	55.6%	2.3%	7.1%	6.6%	

### 3. 食料品等を自分で自動車を運転して確保している高齢者

「自分で自動車等を運転」して食料品等を確保している高齢者の特徴を見てみよう。図表4は、性別と年齢構成である。男女の構成比に大きな違いがないことがわかる。つまり、高齢者女性でも「自分で自動車等を運転」して食料品を調達している者が少なくない。要介護・要支援の高齢者が漸増しはじめる75歳以上の後期高齢者の割合を男女計でみると、各都市規模とも20%前後で、町村では23.1%になる。言い換えると、今後、加齢などによって自動車の運転が難しくなると、食料品等の調達が困難になる可能性がある高齢者が少なくないのである。(図表4)

図表4 自動車等を運転して食料品等を確保している高齢者の性別と年齢

			性年齢階層						合計	男女75歳以上
			男性 60～64 歳	男性 65～74 歳	男性 75歳以上	女性 60～64 歳	女性 65～74 歳	女性 75歳以上		
都市規模	大都市	度数	15	35	17	12	30	4	113	21
		割合(%)	13.3%	31.0%	15.0%	10.6%	26.5%	3.5%		18.6%
	中都市	度数	45	95	55	52	97	20	364	75
		割合(%)	12.4%	26.1%	15.1%	14.3%	26.6%	5.5%		20.6%
	小都市	度数	30	69	29	30	76	18	252	47
		割合(%)	11.9%	27.4%	11.5%	11.9%	30.2%	7.1%		18.7%
	町村	度数	8	26	16	10	36	8	104	24
		割合(%)	7.7%	25.0%	15.4%	9.6%	34.6%	7.7%		23.1%
合計	度数	98	225	117	104	239	50	833		
	割合(%)	11.8%	27.0%	14.0%	12.5%	28.7%	6.0%			

もちろん、図表5のように75歳を過ぎると自分で食料品等の買い物ができないため、「家族・親族に頼んでいる」者が多くなるが、買い物を依頼できる家族などがいない高齢者で食料などの確保が日常生活維持の大きな課題となる。これまで自動車を利用して食料品等を確保していた高齢者にとっては、自動車を手放すことが生活上、難しいことにもなる。(図表5)

図表5 食料品等の買い物の仕方(男女年齢階層別)

			Q17 日常の買い物の仕方							合計
			1 自分でお店に買いに行く	2 移動販売等を利用している	3 宅配サービスやネット販売を利用	4 家族・親族に頼んでいる	5 知人・友人や近所の人に頼んでいる	6 ヘルパーや家事代行に頼んでいる	7 その他	
性年齢階層	男性60～64歳	度数	123	1	1	44	0	0	1	170
		割合(%)	72.4%	.6%	.6%	25.9%	0.0%	0.0%	.6%	
	男性65～74歳	度数	309	0	4	125	0	4	2	444
		割合(%)	69.6%	0.0%	.9%	28.2%	0.0%	.9%	.5%	
	男性75歳以上	度数	179	0	5	101	0	1	2	288
		割合(%)	62.2%	0.0%	1.7%	35.1%	0.0%	.3%	.7%	
	女性60～64歳	度数	157	0	4	5	0	0	0	166
		割合(%)	94.6%	0.0%	2.4%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	女性65～74歳	度数	458	1	14	42	1	3	1	520
		割合(%)	88.1%	.2%	2.7%	8.1%	.2%	.6%	.2%	
	女性75歳以上	度数	273	3	11	91	1	4	5	388
		割合(%)	70.4%	.8%	2.8%	23.5%	.3%	1.0%	1.3%	

#### 4. 現在の居住地に住み続ける場合の不便の有無

現在の居住地に住み続ける場合、日常生活に不便を感じることもあるかその有無と内容を尋ねた設問を取り上げよう(Q21)。図表6は、日常生活の不便の有無を都市規模別にみたものである。これによると、都市規模が小さくなると、「不便を感じるものがない」が減少し、不便を感じることを指摘するものが増加する。とりわけ「日常生活に必要な都市機能(医療機関、福祉施設、商業施設、金融機関など)が500メートル圏内(徒歩圏内)に確保されていない」を指摘する者が多い。(図表6)

図表6 日常生活を送る上で不便を感じる可能性(Q21)

	合計	1 日常生活に必要な都市機能がな	2 公共交通機関が整っていない	3 公園や緑地が少ない	4 歩道が確保されていない	5 治安がよくない	6 近隣に相談などをする人がいない	7 その他	8 不便を感じるものはない	9 不便を感じるものはない
全 体	1976	17.9	13.6	1.4	4.3	0.8	4.5	3.5	45.9	54.1
都市規模										
大都市	440	10.9	8.6	0.7	3.9	0.9	7.0	4.1	36.1	63.9
中都市	816	17.0	13.1	1.6	4.4	0.9	5.1	4.2	46.3	53.7
小都市	502	19.1	17.1	2.0	4.2	0.6	2.4	2.4	47.8	52.2
町村	218	32.1	17.4	0.5	5.0	0.5	1.8	2.3	59.6	40.4

図表7によると、とりわけ町村の75歳以上の高齢者でこの指摘率が高くなる。徒歩圏内に商業施設がなく、かつ公共交通機関も利用できないため、自動車等で食料品など日常の買い物をせざるをえない高齢者が、現在の居住地で住み続ける際の不便の指摘が多いと考えられる。(図表7)

図表7 日常生活を送る上で不便を感じる可能性(都市規模別、男女年齢階層別)

都市規模			Q21 今後不便を感じるであろう住環境								合計
	1 日常生活に必要な都市機能がな	2 公共交通機関が整っていない	3 公園や緑地が少ない	4 歩道が確保されていない	5 治安がよくない	6 近隣に相談などをする人がいない	7 その他	8 不便を感じるものはない			
大都市	男性60-64歳	度数	3	4	0	1	1	4	1	15	29
		割合(%)	10.3%	13.8%	0.0%	3.4%	3.4%	13.8%	3.4%	51.7%	
	男性65-74歳	度数	14	4	1	5	1	7	3	60	95
		割合(%)	14.7%	4.2%	1.1%	5.3%	1.1%	7.4%	3.2%	63.2%	
	男性75歳以上	度数	5	9	1	0	1	4	1	39	60
		割合(%)	8.3%	15.0%	1.7%	0.0%	1.7%	6.7%	1.7%	65.0%	
	女性60-64歳	度数	4	3	0	5	0	3	4	16	35
		割合(%)	11.4%	8.6%	0.0%	14.3%	0.0%	8.6%	11.4%	45.7%	
	女性65-74歳	度数	13	10	0	3	0	9	5	84	124
		割合(%)	10.5%	8.1%	0.0%	2.4%	0.0%	7.3%	4.0%	67.7%	
女性75歳以上	度数	9	8	1	3	1	4	4	67	97	
	割合(%)	9.3%	8.2%	1.0%	3.1%	1.0%	4.1%	4.1%	69.1%		
	合計	度数	48	38	3	17	4	31	18	281	440
中都市	男性60-64歳	度数	11	13	3	2	0	3	5	33	70
		割合(%)	15.7%	18.6%	4.3%	2.9%	0.0%	4.3%	7.1%	47.1%	
	男性65-74歳	度数	41	17	3	12	2	9	7	96	187
		割合(%)	21.9%	9.1%	1.6%	6.4%	1.1%	4.8%	3.7%	51.3%	
	男性75歳以上	度数	18	16	2	3	2	7	9	71	128
		割合(%)	14.1%	12.5%	1.6%	2.3%	1.6%	5.5%	7.0%	55.5%	
	女性60-64歳	度数	11	12	1	3	1	6	3	38	75
		割合(%)	14.7%	16.0%	1.3%	4.0%	1.3%	8.0%	4.0%	50.7%	
	女性65-74歳	度数	37	29	3	12	1	12	5	103	202
		割合(%)	18.3%	14.4%	1.5%	5.9%	.5%	5.9%	2.5%	51.0%	
女性75歳以上	度数	21	20	1	4	1	5	5	97	154	
	割合(%)	13.6%	13.0%	.6%	2.6%	.6%	3.2%	3.2%	63.0%		
	合計	度数	139	107	13	36	7	42	34	438	816
小都市	男性60-64歳	度数	13	9	1	3	1	0	1	29	57
		割合(%)	22.8%	15.8%	1.8%	5.3%	1.8%	0.0%	1.8%	50.9%	
	男性65-74歳	度数	21	25	2	7	0	4	3	59	121
		割合(%)	17.4%	20.7%	1.7%	5.8%	0.0%	3.3%	2.5%	48.8%	
	男性75歳以上	度数	8	10	1	2	0	3	1	40	65
		割合(%)	12.3%	15.4%	1.5%	3.1%	0.0%	4.6%	1.5%	61.5%	
	女性60-64歳	度数	9	6	0	1	1	2	2	16	37
		割合(%)	24.3%	16.2%	0.0%	2.7%	2.7%	5.4%	5.4%	43.2%	
	女性65-74歳	度数	26	25	3	4	1	2	2	68	131
		割合(%)	19.8%	19.1%	2.3%	3.1%	.8%	1.5%	1.5%	51.9%	
女性75歳以上	度数	19	11	3	4	0	1	3	50	91	
	割合(%)	20.9%	12.1%	3.3%	4.4%	0.0%	1.1%	3.3%	54.9%		
	合計	度数	96	86	10	21	3	12	12	262	502
町村	男性60-64歳	度数	4	3	0	1	0	0	0	6	14
		割合(%)	28.6%	21.4%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	42.9%	
	男性65-74歳	度数	13	6	0	3	1	0	2	16	41
		割合(%)	31.7%	14.6%	0.0%	7.3%	2.4%	0.0%	4.9%	39.0%	
	男性75歳以上	度数	12	5	0	0	0	1	0	17	35
		割合(%)	34.3%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	48.6%	
	女性60-64歳	度数	4	6	1	1	0	0	0	7	19
		割合(%)	21.1%	31.6%	5.3%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	36.8%	
	女性65-74歳	度数	20	14	0	3	0	2	3	21	63
		割合(%)	31.7%	22.2%	0.0%	4.8%	0.0%	3.2%	4.8%	33.3%	
女性75歳以上	度数	17	4	0	3	0	1	0	21	46	
	割合(%)	37.0%	8.7%	0.0%	6.5%	0.0%	2.2%	0.0%	45.7%		
	合計	度数	70	38	1	11	1	4	5	88	218

## 5. まとめ

徒歩圏内に商業施設がないために、食料品などの買い物を、自動車などを自分で運転して確保している高齢者が、大都市以外で多い。他方で、加齢によって自動車の運転が難しくなっても、買い物を依頼できる家族などがいない場合では、自動車を手放すことが生活上、難しいことにもなる。徒歩圏内に食料品の買い物などが可能な商業施設がなく、さらに家族等に買い物を依頼できない高齢者に関して、日常生活を支援する仕組みの整備が求められることになる。食料品などの買い物に関して、家族などに依頼する方法以外では、「移動販売等を利用している」「宅配サービスやインターネット等の通信販売を利用している」「ホームヘルパーや家事代行の人に頼んでいる」などの利用はきわめて少ない。自動車を運転して食料品などを確保していた高齢者が、運転が難しい状況になった際に、日常生活を維持するための買い物などの支援のあり方を検討することが必要となる。